

折角なので面白いことへ挑戦を

株式会社オートリテール
代表取締役社長 柳澤 佑太

私は2020年3月に大阪大学大学院工学研究科電気電子情報工学専攻 博士後期課程を修了しました。大学院在学中に会社を立ち上げ、修了後も引き続き身を置いています。社員は私一人しかおらず、いわゆるベンチャー企業になります。事業内容は、大学院在学時代と同様に、主としてパワーエレクトロニクスに関する研究・受託開発などです。博士後期課程2年時に会社を設立しましたので、本稿を執筆している2022年2月時点で、弊社は4期目に入り、引き続き踏ん張りどころが続いているような状況です。

大学院では、電力変換に関する研究を主とするパワーエレクトロニクスを専攻し、当時としては最先端であった窒化ガリウム (GaN) を用いたパワースイッチング半導体の評価・適用先開発に関する研究を進めていました。在学中に数多くの学会参加や論文を投稿したことは、今現在でも私の糧となっており、とても貴重な経験でした。特に国際学会は、世界中から最新の研究成果や技術情報が集まり、近年の研究トレンドを把握できるため、自身の研究にも情報をフィードバックできる良い機会でした。

私が会社を立ち上げたのは、博士後期課程まで進学したのであれば何か面白いことがしたいという興味心に加え、自分自身の力がどこまで通用するかという挑戦心があったからでした。また、好きなパワーエレクトロニクス関係に継続して関わることができる、今考えると浅はかな考えですが、会社を経営すればある程度自由に生活ができる、といった理由もありました。もともと、修了後は大学の先生など、アカデミックの世界での就職を志望していましたが、大学院在学中にこのまま人生を歩み進めていいのだろうか、といった疑問が湧くようになりました。その疑問は徐々に、一度社会の荒波にもまれ、社会経済的な観点から見た様々な見識についても深める必要があるのではないか、といった考えに変わり、アカデミックの世界へはいつか良い機会があれば戻ろうと考え、会社立ち上げを決心しました。それには当然のことながら、仕事があり食べていけることが必要ですが、幸いにも専攻していたパワーエレクトロニクスに対する仕

事の需要は大きいことが、学会での情報収集・意見交換などで分かっていました。では会社を経営していくにあたり、残った課題は何かを考えると、仕事を進めるに必要な技術や知識が身についているかどうかでした。会社を設立する決心をしたのは博士後期課程1年時でした。周囲の学生は博士前期課程で修了・就職してしまい、残った自分には何ができるのだろう、モラトリアムにならぬよう、何かやらねばといった焦りも後押ししました。その頃から研究活動に加え、今後の社会・仕事で必要になる技術・知識を蓄えるよう心掛けていました。また、在学中に会社を立ち上げることで、世の中や会社の仕組みを理解しつつ、修了後もスムーズに移行することができたのは結果的に吉でした。

大学院修了後はある程度自由な生活が送れるという会社設立時の目論見とは異なり、日々仕事に追われ、とても自由な時間はありませんでした。修了直後、会社は2期目であり、潤沢な資金や設備はないため取れる仕事の種類も少なく、恵まれている状況ではありませんでした。また、決算や税務申告など会社に関わるすべての業務を一人でこなしていたこともあり、常々仕事に追われていました。しかし、大学院時代に関係を築いた企業さんや先生方からいただいたお仕事を一つ一つ確実にこなしていくことで、徐々にお仕事をご依頼していただく機会が増え、ゆっくりではありますが、経営が軌道に乗り始めました。ただ、すべてが順調に進むわけではなく、知識・技量不足に加え、自分自身の考え方の甘さや進め方が原因で、取引先などにご迷惑をおかけしたこともありました。その後も確実に一步一步進めることで、なんとか現在では4期目に入ることができました。プレハブの小さな事務所ですが社屋を建設し、電源装置やオシロスコープなどの設備導入を進め、現在では数多くの仕事をいただけるまでに成長させることができました。現在でも、常々会社立ち上げ時の初心に戻り、技術力向上には何が必要か、これを実現するためにはどうすればよいか、など考えながら日々を過ごしています。現在でも望んでいた自由な生活はかけ離れていますが、それに勝る面白

さがあり、苦ではなくむしろ楽しいと思えているので、とても幸せな環境にいることを実感しています。

今、終身雇用からジョブ型雇用への切り替えが始まる兆しをみせるなど、日本の社会構造は時代の流れとともに大きく変革しています。時代の荒波にもまれながらも生き抜いていくためにはさらなる自己研鑽が必要になると思われます。今後も引き続き勉学・業務に励み、なにか一つでも多く抜きん出たものを持ち、どんな荒波が来

ようとそれを超えていけるよう、精進していければと思います。

最後になりましたが、このような貴重な機会をご紹介いただきました舟木剛先生、大学院時代にご指導いただきました伊瀬敏史先生に深くお礼申し上げます。

(電気・電子 平成29年前期 令和2年後期)